

見た目磨き

2025. 4. 4

「見た目」の対義語は何だろうか。「中身」であろうか。見た目ばかりをよくしたとしても、中身の無い人には、評価は伴わないだろう。では、中身とはどんなことなのだろうか。仕事ができれば、それで中身があると言えるのか。そうでもないだろう。

「マイ・フェア・レディ」という映画がある。貧しい花売り娘であるイライザが社交界の花形になる物語である。演じるのは、かのオードリー・ヘップバーンである。イライザの教育係がこんなことを言う。「中身を磨くにはまず見た目からよ」

まずは形からという言葉もある。形から入るとも言う。見た目を磨くことで、実は中身も磨かれるのではなかろうか。見た目に気を遣うということは、自分がどう見えるかを考えることである。考えるということは頭を使うことになる。それだけ、日々の生活にも張りがあり、それが見た目にも現れる。男女の別なく、見た目への意識が高い人は、その分、頭を使っていると言える。

見た目磨きは、中身磨きである。どうも幼稚園に来てからのこの1年、見た目磨きを怠っているように思う。ということは、中身磨きもできてはいないことになる。これはよくない。

『人は見た目が9割』という本がある。なかなか衝撃的なタイトルである。これが「8割」であれば、さほどのインパクトはない。9割と言われると、ほとんどではないかと思ってしまう。今まで、それなりの人生経験を積んできた。その経験から考えるに、人は見た目が8割ぐらいではなかろうか。

このことに関して、もう少し詳しく述べてみる。見た目のとおりだという人が8割にのぼる。だが、2割の人は、見た目と違うのである。見た目と中身が合わない人が2割ほどいる。見た目と違った。そう思われる人が、一定数存在する。何でもそうだが、8割いけば、そういうものだと言っていいだろう。8割は、実質10割に近い。

見た目で損をする人もいるだろう。見た目とは、第一印象でもある。最初に入ってきた印象やデータに左右される人がいる。それが、先入観や固定観念となる。これらをなかなか払拭できないことがある。そうなると、見た目や第一印象をずっとひきずることになる。

この1年は、今一度、見た目磨きに励もうかと思う。見た目磨きは、中身磨きでもある。誰でも、中身は磨きたいだろう。そうであれば、見た目も重要である。衣服や髪型、靴にカバンなど、見た目を左右する要素は多い。一番は、顔つき、表情、そして目であろう。見た目磨きに励むかどうかで、その日の充実度が違ってくるように思う。